

総合診療部を経験して

歯科総合診療部を経験して

歯科総合診療部 渡邊大祐
専門研修医1年

2014年3月に日本歯科大学新潟生命歯学部を卒業し、本学歯科総合診療部での研修を終え、4月から専門研修医として新たにスタートを切る事ができました。振り返ると本当にあっという間だったというのが率直な感想ですが、その短い時間の中でも多くの人に支えられながら、自身を成長させることの出来た有意義な1年間だったと思います。この場を借りて私が歯科総合診療部で経験したことをご紹介したいと思います。

私が本学歯科総合診療部を研修先として選択した理由は、見学説明会の際に設備が非常に整っておりスキルアップのための模型実習等も不自由なく行うことができ、自分が熱心に取り組めば、それに応えてくれる指導医の先生方が数多くいることが感じて取れたからです。この恵まれた環境で自己研鑽に励み、研修を通してまだ漠然としか考えていなかった自分の歯科医師像を少しでも明確なものにしていけたらと考えておりました。

研修当初は他大学卒業ということもあり、全く新しい環境の中で期待はありつつも不安の方が大きかったかもしれません。新しい環境に慣れることに精一杯な上に、担当医として患者さんに接することの責任に、戸惑いや不安を抱く日々がありました。しかし経験を重ねるに連れ、診療にも少しずつ順応し患者さんとの信頼関係が築くことができるようになり、もっとうまく処置ができるようになりたい、色々な症例を経験したいといったポジティブな気持ちを抱くようになりました。今では歯科総合診療部で研修できて本当に良かったと感じています。

私個人の感想として歯科総合診療部の研修で特に良かった点は、自分が担当医として患者さんの診療に取り組むことができることです。患者さん

の治療方針及び計画の立案、実際の治療とその経過・予後という一連の流れを指導医の先生方から助言を頂きながら経験することができました。患者さんの全身状態や口腔内の状態はそれぞれ異なり、全く同じ症例というのは存在せず、1人1人に最適な治療法を考えていくことの重要さとその難しさを痛感しました。そのような経験ができるのも1年間担当医として患者さんと向き合えるからだと思います。

また指導医の先生方の指導が行き届いているところも研修を通して強く印象に残っています。治療前には十分なディスカッションをした上で治療に臨むことができ、治療中も指導医の先生方に確認してもらい、アドバイスを貰いながら安心して治療を進めることができます。処置後には全ての症例に対し、治療で良かった点や改善点などを細かく教えて下さり、今後スキルアップをするには何が必要かを自分たちに考えさせるきっかけを与えてくれます。そうした先生方の熱心な指導のもと自身の治療を振り返り、次回はどのような点に注意するかを考察し実践していくことで確実に技術力の向上が図れたと感じています。

私自身は総合診療部での研修を終え、歯科総合診療部の専門研修医としてお世話になることができました。研修を通してできるようになったことももちろんありますが、まだまだ至らない点も数



多くあります。もう1年この恵まれた環境の中で多くのことを勉強させて頂き、研修医の頃に不足していた部分を埋めていけるよう努力し、自分の抱く歯科医師像に少しずつ近づけていけたらと考えています。

この1年間の研修は自分が歯科医師になったことを自覚でき、今後の歯科医師人生の基盤となるかけがえのないものでした。ここでの経験を忘れずに更に発展・充実した歯科医師人生にしたいと思えます。

歯科総合診療部を経験して

歯科矯正学分野 大学院1年 網谷 季莉子

初めまして。44期生、卒後2年目の網谷季莉子です。私は卒後1年目に歯科総合診療部で臨床研修させていただき、現在は歯科矯正学分野大学院1年生です。

今回、「歯科総合診療部を経験して」というテーマを頂きましたので本学部卒業生として、学生から研修医までお世話になった歯科総合診療部について執筆させていただきます。

実は旧診療室を最後に使用したのも、現在の新しい診療室を初めて使用したのも私達の学年でしたのでそこには特別な思い出があります。そう、私達の代はちょうど学生の臨床実習開始と病院移転が重なった代でした。平成24年10月に臨床実習開始し、翌月11月に歯科総合診療部含め歯科外来全体が新外来棟へ引越しました。臨床実習に少し慣れてきたタイミングでまた新たな環境に置かれ私達学生も混乱する場面が多々ありましたが、藤井教授はじめ多くの方々の手厚くご配慮下さったおかげで大きなトラブルなく臨床実習が継続できたものと思います。むしろ、このような病院の沿革の節目に立ち会えたことを光栄に思います。多くの先輩、先生方の思い出いっぱいの旧診療室を引継ぐことができ、そしてまた新しい診療室での初代臨床実習学年になることができ、私たちの学年は幸運でした。

臨床実習も卒後研修も本当に貴重な経験で、恵

まれた環境だったと感謝しております。どちらも周囲の大きなサポートが不可欠で、指導医や技工士の先生方、先輩、病院のスタッフの皆様が私たちを温かく厳しく導いてくださいました。責任も大きいですが、その分やりがいもあります。1年間担当させていただいた患者さんの最後の診療後にお礼を言うと、非常に喜んでいただき「感謝するのはこっちの方ですよ。毎回毎回頑張ってくれて、こんなにいい入れ歯を作ってくれてありがとう。」とっていただきました。私が未熟なために迷惑かけてばかりだったのにこんなに温かく受け入れてくださったことが嬉しくてありがたくて、これからももっと頑張らなければという励みになりました。

無事卒業、国家試験合格した後卒後研修のために再び総合診療部に戻ってきました。歯科総合診療部での卒後研修を学生の延長ととらえる方も多いかもしれませんが。しかし今度は実習ではなく、あくまで国家資格を持った歯科医師としての研修なので、自分の意識は学生のそれとは大きく異なります。担当となった患者さんの主治医は自分になり、多くの面で自分の裁量に任せられます。ですが困ったときも指導医の先生方が親身的に的確に指導して下さるので大変助かり勉強になりました。また、研修歯科医の同期がたくさんいたことも大きな励みになりました。自分が日々の診療や技工などで悩むことは周りも同じようなことでつまづいていることが多いので、お互いに相談しあったり教えあったりできました。辛いことがあれば励ましあえる仲間は何度も助けられました。

私が歯科総合診療部での卒後研修を選択したの



は、将来大学院生として大学に残ることも考えていたからです。専門診療室に入る前にまずは一般歯科をじっくり経験して基本を身に着けたいと思ったのです。1年間の研修で自分の目指す歯科

医師像を具体的にイメージできるようになりました。歯科総合診療部での経験は私の歯科医師人生の基盤です。いつまでもここで感じた「初心」を忘れずに精進してまいりたいと思います。

